



Nintex[®] Workflow

Nintex Workflow 2013 インストール ガイド

NINTEX Workflow for Everyone

support@nintex.com

www.nintex.com

目次

システム必要条件	2
1. Nintex Workflow 2013 のインストール	4
1.1 インストーラーの実行	4
1.2 ソリューション パッケージの展開	4
1.3 Nintex Workflow 2013 下位互換性ユーザーインターフェイス (UI) 機能のインストール (オプションの追加機能)	5
1.4 Nintex Workflow 2013 Enterprise 機能のインストール (オプションの追加機能)	5
1.5 ライセンスのインポート	5
2. データベース構成	6
2.1 データベースの構成	6
2.2 コンテンツ データベースの追加 (オプションの追加機能)	6
3. Nintex Workflow 2013 サーバー設定の構成	6
3.1 Web アプリケーションのアクティブ化	6
3.2 Nintex Workflow 2013 ワークフロー アクションの有効化	6
3.3 電子メール設定の構成	7
3.4 LazyApproval™ 設定の有効化と構成 (オプションの追加機能)	7
4. Nintex Live	7
4.1 Nintex Live への接続	7
4.2 Nintex Workflow 向けに Nintex Live を有効化する	8
5. 機能のアクティブ化	8
5.1 サイト コレクションのアクティブ化	8
5.2 サイトのアクティブ化	8
付録 A: ワークフロー実行に必要な SharePoint サービスに関する注意事項	10

システム必要条件

オペレーティング システム

Nintex Workflow 2013はMicrosoft Windows Server 2008 R2またはWindows Server 2012にインストールする必要があります。

ブラウザー クライアント

Microsoft Internet Explorer 8.x (ただし Microsoft Internet Explorer 9 以降を推奨)。

ソフトウェア

Nintex Workflow 2013 では、次のソフトウェアがインストールされ、正しく構成されている必要があります。

- ・ Microsoft SharePoint Foundation 2013またはMicrosoft SharePoint Server 2013
- ・ SQL Server 2008 R2 SP1またはSQL Server 2012

1. Nintex Workflow 2013 のインストール

1.1 インストーラーの実行

1. ソリューションおよび機能を展開するのに十分な特権を持つ SharePoint 管理者としてサーバーにログインします。インストーラー ファイル (exe) をダブルクリックして[Next](次へ) をクリックします。
2. 使用許諾契約書に目を通します。インストールを続けるには、[I Agree](同意します) を選択する必要があります。[Next](次へ) をクリックします。
3. Nintex Live をインストールするかどうかを選択します。これにより Nintex Live Framework と、Nintex Live への接続に必要な証明書がインストールされます。

注: Nintex Live の使用方法については www.nintex.com/licensing の Nintex ライセンス情報をご覧ください。また、Nintex Live の構成方法についての詳細は [セクション 4.0](#) をお読みください。

4. SharePoint に今すぐソリューションを追加するか (推奨)、後で SharePoint PowerShell を使用して手動で展開できるようエクスポートするか (詳細設定) を選択します。[Next](次へ) をクリックします。

注: Nintex Workflow 2013 は、Program Files ディレクトリ内にフォルダを作成しません。ソリューションのエクスポートを選択すると、手動で展開する様々なソリューションファイルを利用することになります。

5. 続行する準備ができたというメッセージが表示されます。[Next](次へ) をクリックします。
6. [Close](閉じる) ボタンをクリックします。SharePoint Central Administration がバックグラウンドで読み込まれているはずですが。

1.2 ソリューション パッケージの展開

1. [サーバーの全体管理] ページに移動して[システム設定] をクリックします。
2. [ファーム管理] セクションの [ファーム ソリューションの管理] をクリックします。「nintexworkflow2013.wsp」というソリューションが表示されます。

さらに、以下の2つのソリューションが追加表示されます。

- 「nintexworkflow2013backwardscompatibilityui.wsp」— SharePoint 2010 からデータベース接続アップグレードを実行する場合のみ展開してください。
- 「nintexworkflow2013enterprisefeatures.wsp」— Enterprise 版のライセンスをお持ちの場合にのみ展開してください。

3. 「nintexworkflow2013.wsp」リンクをクリックし、さらにツールバーの [ソリューションの展開] リンクをクリックします。
4. [展開先] セクションで [すべてのコンテンツ Web アプリケーション] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
5. 少したつと、[ソリューション管理] ページに戻ります。この時点で「Nintex Workflow 2013.wsp」が [展開済み] として表示されているはずですが。
6. ステップ3と4を繰り返し、「nintexworkflow2013.wsp」を再度展開してください。[サーバーの全体管理] の Web アプリケーションを [展開先] として選択してください。

1.3 Nintex Workflow 2013 下位互換性ユーザーインターフェイス (UI) 機能のインストール (オプションの追加機能)

1. [サーバーの全体管理] ページに移動して [システム設定] をクリックします。
[ファーム ソリューションの管理] をクリックします。
2. 「nintexworkflow2013backwardscompatibilityui.wsp」リンクをクリックし、さらにツールバーの [ソリューションの展開] リンクをクリックします。
3. [展開先] セクションで [すべてのコンテンツ Web アプリケーション] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
4. 少したつと、[ソリューション管理] ページに戻ります。
この時点で「nintexworkflow2013backwardscompatibilityui.wsp」が [展開済み] として表示されているはずですが。

1.4 Nintex Workflow 2013 Enterprise 機能のインストール (オプションの追加機能)

1. [サーバーの全体管理] ページに移動して [システム設定] をクリックします。
[ファーム ソリューションの管理] をクリックします。
2. “nintexworkflow2013enterprisefeatures.wsp”
リンクをクリックし、ツールバーの [ソリューションの展開] をクリックします。
3. [展開先] セクションで [すべてのコンテンツ Web アプリケーション] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
4. 少したつと、[ソリューション管理] ページに戻ります。
この時点で「nintexworkflow2013enterprisefeatures.wsp」が [展開済み] として表示されているはずですが。
5. ステップ 2と3 を繰り返し、「nintexworkflow2013enterprisefeatures.wsp」を再度展開してください。
[サーバーの全体管理] の Web アプリケーションを [展開先] として選択してください。

注意: これは SharePoint サーバーの全体管理から管理レポートを実行するために必要です。

1.5 ライセンスのインポート

本製品の全機能をご使用になりたい場合は、Nintex 発行のライセンスファイルが 必要です。
このライセンスは、完全版製品ライセンスでも評価版ライセンスでも結構です。ライセンスファイルは SharePoint の [サーバーの全体管理] にインポートする必要があります。

1. [サーバーの全体管理] ページに移動して [Nintex Workflow 管理] をクリックします。
[ライセンス] をクリックします。
2. [インポート] ボタンをクリックします。
3. [参照] をクリックしてライセンスファイルを検索します。ファイルが見つかったら
[インポート] ボタンをクリックします。
4. [ライセンス] 情報が表示されます。[OK] をクリックします。

これで Nintex Workflow 2013 のデータベース構成に進むことができます。

2. データベース構成

2.1 データベースの構成

1. [Nintex Workflow の管理] ページに移動して [データベースの設定] をクリックします。
2. [構成データベース] 内の「作成」ボタンをクリックします。
3. お使いのデータベース サーバーとデータベース名を入力します。

注意: 既定では、データベース サーバーはSharePoint データベース サーバーとなります。

注意: Nintex Workflow 2013 では複数のデータベースを使用して、1 つを構成用に、その他をコンテンツ用に使用することができます。既定では、構成データベースはコンテンツデータベースも兼用します。また、必要に応じてさらにデータベースを追加することもできます。

4. [OK] をクリックします。

注意: 小規模なファームの場合は、コンテンツと構成データベースに同一のデータベースを使用するのが適切です。複数のコンテンツ データベースを追加することにより、Nintex Workflow 2013 は各サイトコレクション内の複数のワークフローを別々のコンテンツ データベースに自動的に配分し、負荷を分散します。

2.2 コンテンツ データベースの追加 (オプションの追加機能)

1. [サーバーの全体管理] ページに移動して [Nintex Workflow 管理] をクリックします。
[データベースの設定] をクリックします。
2. [コンテンツ データベース] セクション内の [コンテンツ データベースの追加] をクリックします。
3. 上記セクション 2.1 のステップ 3 と 4 を繰り返します。
4. これにより [構成データベース] セクションに2種類のコンテンツ データベース接続文字列が表示されます。

3. Nintex Workflow 2013 サーバー設定の構成

3.1 Web アプリケーションのアクティブ化

1. [サーバーの全体管理] ページに移動して [Nintex Workflow 管理] をクリックします。
[Web アプリケーションのアクティブ化] をクリックします。
2. 既定の Web アプリケーション名が自動選択されます。 [アクティブ化] をクリックします。

3.2 Nintex Workflow 2013 ワークフロー アクションの有効化

1. [サーバーの全体管理] ページに移動して [Nintex Workflow 管理] をクリックします。
[許可されたアクションの管理] をクリックします。
2. Workflow Designer に表示したいアクションのボックスにチェックマークを入れて、
[OK] をクリックします。

3.3 電子メール設定の構成

1. [サーバーの全体管理]ページに移動して[Nintex Workflow 管理]をクリックします。
[グローバル設定]をクリックします。
2. お使いの環境の詳細を適宜入力し、[OK]をクリックします。

3.4 LazyApproval™ 設定の有効化と構成 (オプションの追加機能)

1. [サーバーの全体管理]ページに移動して[Nintex Workflow 管理]をクリックします。[LazyApproval™ の設定]をクリックします。
2. [現在のサーバー ファームでのLazyApproval™ の有効化/無効化]をクリックします。
3. [サーバーへの受信メール設定の構成]をクリックし、お使いの SharePoint 構成に関するガイド文書に従って構成を行います。
4. 構成が完了したら[LazyApproval™]のページに戻ります。[電子メールにより LazyApproval™ を有効化]セクションで[はい]を選択します。この際に[エイリアス]の入力を求められます。これは通知を送信し、LazyApproval™ による返信を受信する電子メールアドレスで使用される名前です。[OK]をクリックします。
5. LazyApproval™ 処理が認識する使用可能な単語のリストが表示されます。適宜用語の追加と削除を行ってください。

4. Nintex Live

Nintex Workflow の Nintex Live機能を使用すると、Nintex Live カタログからNintex Workflow アクション ツールボックスに各種の Web サービスを追加できます。

注意: Nintex Live フレームワークと Nintex Live

への接続を有効化するための証明書を事前にインストールしておく必要があります。上記セクション 1.1のステップ 3 で「Nintex Live

のインストール」を行わなかった場合は、「nintexlivecore.wsp」を手動でインストール・展開し、[Certs]フォルダから全ての証明書をインポートしてください。「nintexlivecore.wsp」と[Certs]フォルダには、セクション 1.1のステップ4で手動による展開のためのソリューションのエクスポートを選択するとアクセスできます。

重要: SharePoint の[サーバーの全体管理]をホストしないコンピュータに Nintex Workflow 2013 をインストールした場合、Nintex Live の使用には以下の追加ステップが必要となります。SharePoint の[サーバーの全体管理]をホストするサーバーにログオンし、SharePoint PowerShell コマンド プロンプトを開いて次のコマンドを実行してください:

```
install-liveservice
```

これにより Nintex Live の構成の準備が整います。

4.1 Nintex Live への接続

Nintex Live フレームワークは、Nintex Live との通信にインターネット接続を必要とします。

1. [サーバーの全体管理]ページに移動して[Nintex Live 管理]をクリックします。
[正常性チェック]をクリックします。
2. Nintex Liveへの接続が確立されると、ステータス欄に[成功]というメッセージが表示されます。

注意: お使いのネットワークでインターネット接続にプロキシサーバーが必要な場合は、[プロキシサーバー]セクションにサーバーの詳細情報を入力してください。これらの設定は Nintex Live フレームワークに特定のものであり、インターネット接続が許可される唯一のアプリケーションとなります。

4.2 Nintex Workflow 向けに Nintex Live を有効化する

1. [サーバーの全体管理]ページに移動して[Nintex Workflow 管理]をクリックします。
[Live 設定]をクリックします。
2. [Nintex Workflow 向けに Nintex Live を有効化]のセクションで[有効化]をクリックし、さらに[OK]をクリックします。

5. 機能のアクティブ化

5.1 サイト コレクションのアクティブ化

1. トップ サイト レベルのホームページに移動します。
歯車のアイコンをクリックし、さらに[サイト設定]を選択します。
2. [サイト コレクションの管理]内にある[サイト コレクションの機能]をクリックします。
3. [Nintex Workflow 2013]ページに移動し、[アクティブ化]をクリックします。
4. 少し待つとページが更新され、ステータスが[アクティブ]になります。
5. このサイト コレクションの各サイトで Microsoft InfoPath 2013 を使用してデザインした開始フォームやタスクフォームを使用するには、[Nintex Workflow 2013 InfoPathフォーム]ページに移動して[アクティブ化]をクリックします。
6. このサイト コレクションの各サイトで Nintex Workflow の Web パーツを使用するには、[Nintex Workflow 2013 Web パーツ]ページに移動して[アクティブ化]をクリックします。
7. このサイト コレクションの各サイトで Nintex Workflow Enterprise Reporting Web パーツを使用するには、[Nintex Workflow 2013 Reporting Web パーツ]ページに移動して[アクティブ化]をクリックします。

注意: この機能は Enterprise 版でのみ使用可能です。

8. このサイト コレクションの各サイトで Nintex Live カタログを使用するには、[Nintex Workflow - Nintex Live カタログ]ページに移動して[アクティブ化]をクリックします。

注意: この機能は[Nintex Workflow向けNintex Live]機能が有効化されている場合のみ使用可能です。

これで各サイトでも Nintex Workflow 2013 の各機能をアクティブ化できるようになります。

5.2 サイトのアクティブ化

1. トップ サイト レベルのホームページに移動します。
歯車のアイコンをクリックし、さらに[サイト設定]を選択します。
2. [サイト アクション]セクション内の[サイト機能の管理]をクリックします。
3. [Nintex Workflow 2013]を見つけ[アクティブ化]をクリックします。
4. 少し待つとページが更新され、ステータスが[アクティブ]になります。

5. このサイト コレクションの各サイトで Nintex Workflow Enterprise Reporting Web パーツを使用するには、[Nintex Workflow 2013 Enterprise Reporting]を見つけ、[アクティブ化]をクリックします。

注意: この機能は Enterprise 版でのみ使用可能です。

これで Nintex Workflow 2013 の操作およびデザインが可能になります。

付録 A: ワークフロー実行に必要な SharePoint サービスに関する注意事項

お使いの SharePoint ファームでワークフローを実行する際に有効化と実行が必要となる SharePoint サービスについての詳細は、以下の技術文書を参照してください。(英文のみ)

- [ワークフローとその実行に必要な SharePoint サービスについて](#)